令和４年度

校内研修計画

柏市立田中北小学校

１．研究主題

自己肯定感を高め，自ら行動する児童の育成

～「わかる」「できる」を実感する算数科授業の創造～

２．主題の意味

本校では，研究主題に掲げたキーワードを次のように考える。

「自己肯定感」とは
・ありのままの自分を認め，好意的に受け止めることができる感情。
・自分の価値や存在意義を肯定できる感情。

「自ら行動する」とは
・わからないこと，できないことを他者に伝えたり助けを求めたりする。
・わからなかったことを友達や先生に聞いたり，調べたりする。
・自分だけでは解決できない問題について，友達や先生の助けを求め，一緒に取り組む。
・課題に自ら取り組むことができる。
・どうすればもっとよくできるか考え，実践する。
・諦めずに粘り強く取り組む。
・失敗を恐れずに挑戦する。

「わかる」とは
・問題の意味がわかる。
・学習の課題がわかる。
・解き方がわかる。
・計算の仕方がわかる。
・先生や友達の説明がわかる。

「できる」とは
・意欲をもって学習に参加できる。
・具体物を操作できる。
・作図ができる。
・計算ができる。
・自分の力で問題を解くことができる。
・自分の考えを説明できる。
・学習したことを活用できる。

３．主題設定の理由

（１）研究の経緯から

令和２・３年度は，数学的活動の効果的な活用や，伝え合い，高め合う力を伸ばす指導の工夫を通して「わかる」「できる」を実感する算数科授業の創造を目指して研修してきた。今年度は３年計画の３年目となる。

昨年度の成果として，伝え合いの場面にタブレット PC やホワイトボードを活用し，考えを比較したり，考えの過程を理解したりしたことで，「わかる」「できる」を実感させることができた。児童に対して行った研修アンケートの結果では，全校の８６％の児童が「算数が楽しい」と回答している。対して，児童一人一人が本当にわかったのか，できたのかを把握する手立てが不十分であり，児童の変容や児童に力がついているのかどうかがわかりづらいといった課題も挙がった。

（２）児童の実態から

昨年度末に行った本校教員に対する研修アンケートでは，児童につけたい力として自ら課題を設定する力，まわりと協働して問題を解決する力，自己肯定感を強く持ち困難な状況にも立ち向かっていけるたくましさ等が挙がった。本校は令和５年度に新設校への移転を控えており，

新設校の教育基本コンセプトは「これからの時代を力強く生き抜くことができる子」となっている。これらを踏まえて今年度の学校教育目標に新しく「自立」という言葉が加わっている。

また，令和３年度の柏市学力・学習状況調査の結果では，本校児童の正答率を全国平均正答率と比較した場合，国語も算数も基礎的な問題の正答率，活用型問題の正答率ともに全国平均を上回っていた。しかし柏市が定めている「４つのＣ（見通す力Concept・挑戦する力Challenge・関わり合う力Communication・自立する力Control」の結果を見ると，Conceptの「振り返り」やChallengeの「目標への努力」の数値が低い傾向が見られた。

これらの結果から，授業中の学習内容は理解できていても，学習の自己調整力や学びの過程に課題があることがわかった。

（３）学習指導要領（平成２９年３月告示）から

学習指導要領算数編では，算数科の目標の改善の３つ目に「算数科の学びの過程としての数学的活動の充実」を挙げ，「資質・能力が育成されるためには，学習過程の果たす役割が極めて重要である。算数科・数学科においては，中央教育審議会答申に示された『事象を数理的に捉え，数学の問題を見いだし，問題を自立的，協働的に解決し，解決過程を振り返って概念を形成したり体系化したりする過程』といった算数・数学の問題発見・解決の過程が重要である。」としている。この学習過程に必要となるのが「主体的に学習に取り組む態度」すなわち「粘り強く取り組みを行おうとする姿勢」と「自らの学習を調整しようとする姿勢」である。今年度の主題設定の理由（１）（２）からも，こうした学習過程を重視し，主体的な学びが得られるような観点を取り入れた授業改善を行っていくことが必要である。

（４）学校教育目標から

知性と徳性を備えた健康で人間性豊かな児童の育成 ～「凡事徹底」，「自立」～

今年度の学校経営のキーワードとして，「自立」「挑戦」「自己肯定感」の３つが挙げられている。普段の授業，学級経営を通して，児童が安心して成長できるよう，場を整えたい。

以上４つの視点から，主題を設定した。

４．研究仮説

学びの場や過程を工夫し，「わかる」「できる」を実感できる授業を創造すれば，児童の自己肯定感を高め，自ら課題解決に向けて行動できる児童を育成することができるだろう。

５．研究内容

（１）仮説への手立て

①児童が自らの学びを振り返る時間を設けることで，何ができて何ができないのかを考え，「わかる」「できる」を実感したり，わからないことに対してどうするか見通しを持ったり手立てを考えたりできるようにする。

②児童が学習の見通しを持ったり計画を立てたりする時間を設け，最後までやり遂げる経験を積み重ねることで，粘り強く努力できるようにする。

③（感染状況を見ながら）児童同士で関わり合う場を設けることで，解決できない課題や問題に対し，周囲に助けを求めたり協働したりして取り組むことができるようにする。

④振り返る時間を設け，自らの学びに向かう姿勢や学びの過程について客観視したり他者から認められたり，達成感を得られたりする場を設けることで，自分の長所・短所を含め自分自身を認め，自己肯定感を高められるようにする。

（２）「４つのＣ」重点項目

Concept	振り返り	学んだ結果，よく分かったこと，あまり分からなかったことを整理することができる。
Challenge	目標への努力	夢や目標に向かって，近づくための努力をすることができる。
Communication	協働	自分だけでは解決できない問題について，友達や先生の助けを求めて，一緒に取り組むことができる。
Control	自己肯定感	自分の長所･短所を含め，自分自身を認めることができる。

６．めざす児童像　※全体会の中で，各学団で児童の実態に基づき児童像を設定する。

＜令和３年度＞

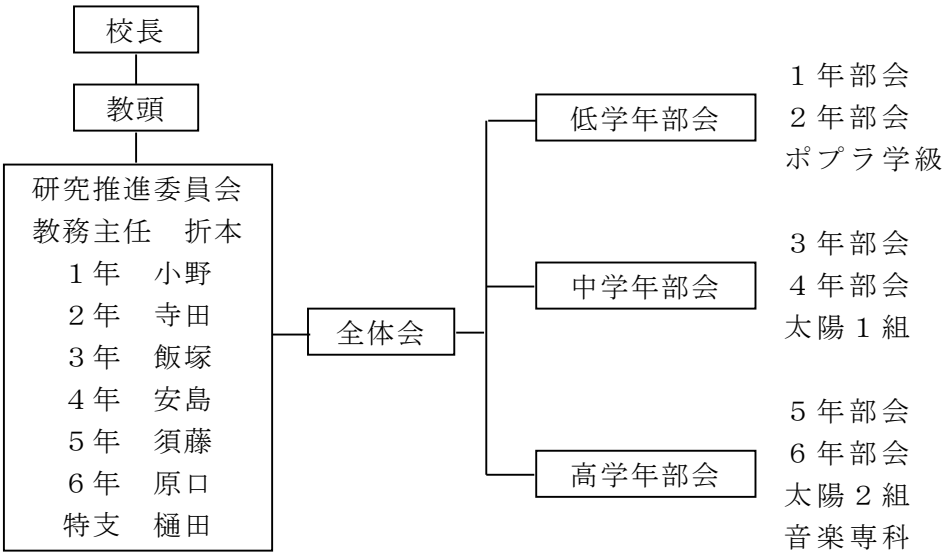
・既習事項を生かし，課題解決の見通し，課題を解決することのできる子
・基礎的・基本的な知識・技能を身につけ，伝え合うことができる子

＜令和４年度＞

太陽・ポプラ	基礎的基本的な知識・技能を身に着け，自分では解決できない問題について友達や教師と一緒に意欲を持って最後まで取り組む子
低学年	既習事項を生かしたり友達や先生の助けを借りたりして意欲を持って課題解決ができる子
中学年	既習事項をもとに自分の考えを持ち，それを伝え合うことで課題解決ができる子
高学年	自分の課題を見出し，それぞれの力や場面に合った解決策を選択し，課題解決ができる子

７．研究の組織及び運営

（１）研究組織　　＊助言者　校長・教頭



（２）組織の機能と運営

①研究推進委員会

・研究の企画，立案，調整を行う。

・研究に関する基本事項や実践上の諸問題について話し合い，研究の推進を図る。

・必要に応じて適宜開く。

②学団部会（低・中・高学年部会）

・研究推進委員会の基本方針を受け，めざす児童像を決定する。

・学年部会を低・中・高にグループ化し，授業研究の際に指導案の検討をする。

・授業研究会では仮説と授業を見るポイントに基づいて，授業について話し合い，成果と課題を明確にする。

・各学年の研究推進委員が中心となり進める。

③各学年部会

・研究推進委員会の基本方針を受け，仮説を決定する。

・仮説に基づいて，主体的に研究の推進を図る。

・各学年の研究推進委員が中心となり進める。

（３）研究の運営

・授業研究は学団体制で行い，原則として学級担任全員が授業展開を行う。
（講師招聘については各学団１回）

・授業研究（講師招聘）は，必ず参観とする。（昨年度は感染対策で別室中継をしていましたが，今年度は行いません。）授業研究後の話し合いは全員参加とし，学団を中心に進める。

・研究の基本や校内授業研究など研究全般について全体会を開き，職員の共通理解を図るとともに意見交換の場とする。

・講師を招聘しない各学年の授業の参加は任意とするが，同学団の授業は参観することとし，授業日程について全体に周知を図る。

・講師を招聘しない各学年の授業の指導案作成は任意とするが，授業の検討は個人で進めずに学年・学団で行う。また，講師指導を受けてどのように授業に生かしたのか，ポイントや視点を記載したものがあると参観の際の参考になる。

・経験者研修等と兼ねても良いこととする。その際の指導案は市教委から指定のもの以外は本校の指導案形式を活用してもよい。

８．年間計画

月または学期	主な内容	形態	助言者
４月	研究主題の決定		
５月	めざす児童像・授業時期決定		
６月	指導案検討		
７月	第１回校内研修　現職研修	授業研	講師
8･9 月	前期実態アンケート作成・実施		
10 月	指導案検討		
11 月	第２回校内研修　指導案検討	授業研	講師
12 月	第３回校内研修	授業研	講師
１月	後期実態アンケート実施　研修の成果と課題		
２月	研究紀要作成　今年度の反省　次年度の研究構想		

９．その他

（１）授業展開について

①学年・学団の課題を受けて作成した「めざす児童像」に向けて，日々の授業から手立てを積み重ねていく。研究授業ではその普段の授業を展開する。

②講師の指導を受けて，授業展開した学級の学年・学団の学級担任が事後授業を行えるとよい。

（２）参観中について

参考資料「授業参観五箇条」

①「自分が学ばせていただく」「自分も授業づくりに取り組む一員」「議論に参加できるのは，授業を提案していただいたから」という気持ちを持って参観する。

②参観中に，疑問点や改善点を見つけたとしても，参観者同士でひそひそ話をしない。

③研究授業を温かい表情で見守り，子どもの様子を丁寧に見取る。

④参観者が適用問題の解き方を教えない。

⑤授業記録，写真を残し，授業検討会に生かす。

2019 年 12 月 27 日　内外教育　第 3 種郵便物認可

「『授業研究』の質的転換を求めて」

佐藤隆史（宮城県角田市立角田小学校教諭）（当時）